

## 2章 恵庭市の現状

### 1 人口・世帯構造

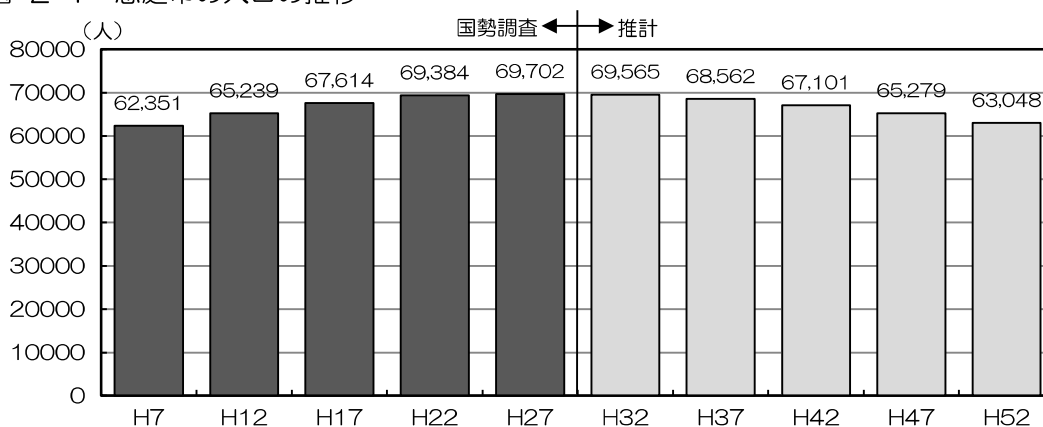
#### (1) 人口・世帯

##### a. 人口

恵庭市の人口は平成 27 年国勢調査で 69,702 人、20 年間（平成 7～27 年）の推移をみると、増加が続いており約 12%の増加となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口では、平成 32 年以降減少に転じる見込みであり、平成 32 年で 69,565 人、平成 37 年で 68,562 人と推計されています。

図 2-1 恵庭市の人口の推移

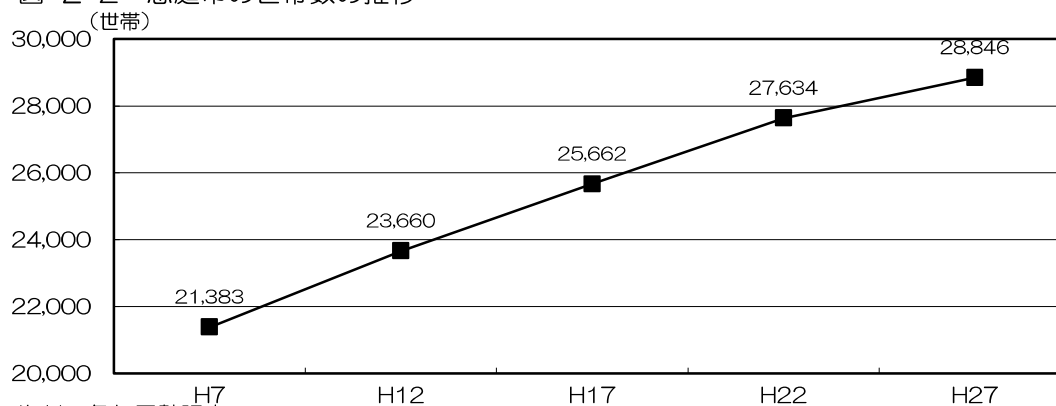


資料：H7～27 は各年国勢調査、  
H32～52 は国立社会保障・人口問題研究所の推計準拠値（恵庭市人口ビジョン）

##### b. 総世帯数

恵庭市の世帯数は平成 27 年国勢調査で 28,846 世帯です。20 年間（平成 7～27 年）の推移をみると約 35%の増加となっています。

図 2-2 恵庭市の世帯数の推移



資料：各年国勢調査

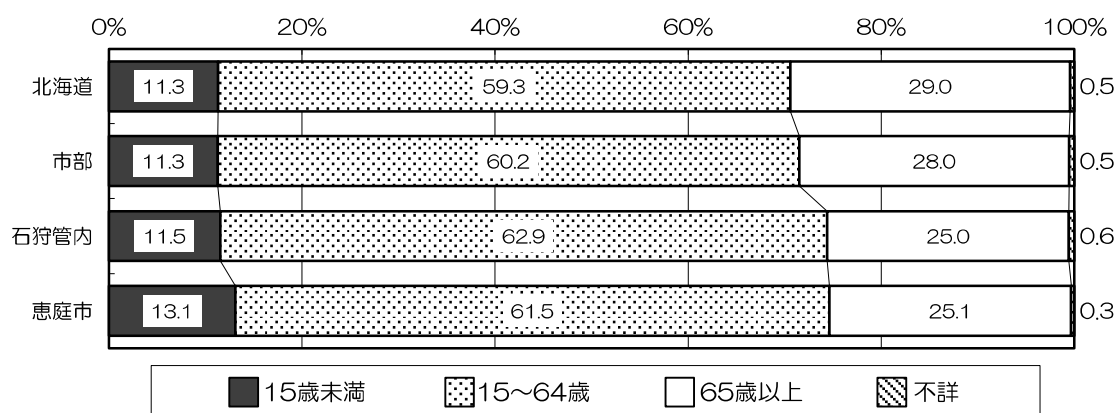
### c. 年齢別人口

年齢別人口をみると、平成 27 年国勢調査で、年少人口（15 歳未満）が 9,132 人（13.1%）、生産年齢人口（15～64 歳）が 42,897 人（61.5%）、高齢人口（65 歳以上）が 17,465 人（25.1%）となっています。

年少人口率は、全道、市部平均、石狩管内で最も高く、高齢人口率は全道、市部より低くなっています。

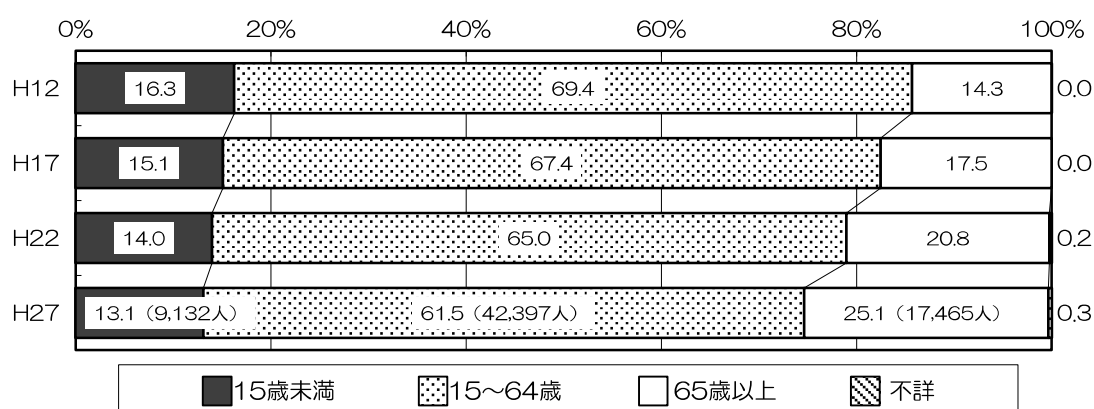
15 年間（平成 12～27 年）の推移をみると、年少人口は実数、構成比ともに減少傾向、高齢人口は実数、構成比ともに増加傾向にあり、少子高齢化が進展しています。特に、高齢人口は 15 年間で 1.9 倍と急速に増加しています。

図 2-3 年齢別人口構成比の比較



資料：平成 27 年国勢調査

図 2-4 年齢別人口構成比の推移



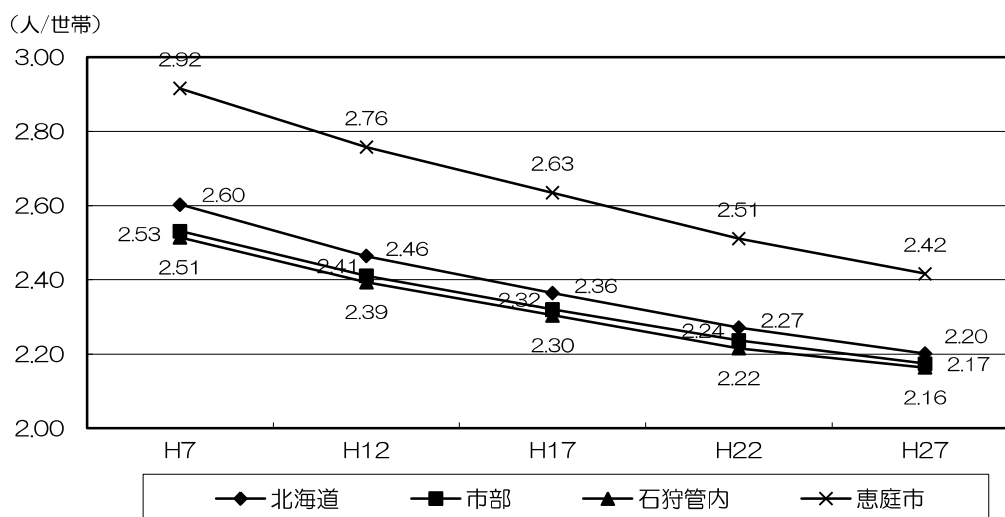
資料：各年国勢調査

注：本計画における構成比は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100% とはならない。

## (2) 平均世帯人員

平均世帯人員は平成 27 年国勢調査で 2.42 人／世帯であり、全道、市部、石狩管内と比較して最も世帯規模が大きくなっています。20 年間（平成 7～27 年）の推移をみると、全道、市部、石狩管内とともに世帯規模の縮小化が見られます。

図 2-5 平均世帯人員の推移の比較



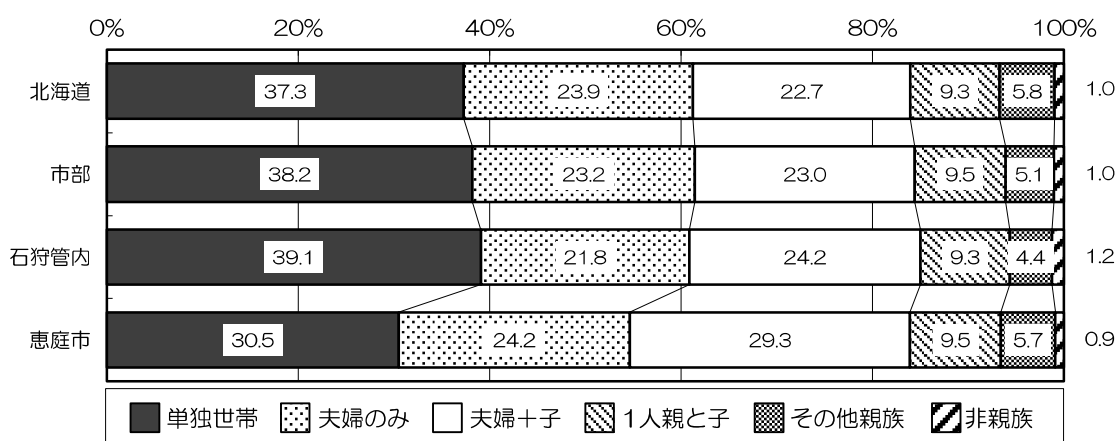
資料：各年国勢調査

### (3) 家族類型別世帯数

家族類型別世帯数をみると、平成 27 年国勢調査では、「単独世帯」が 30.5%で最も高く、以下、「夫婦＋子世帯」が 29.3%、「夫婦のみ世帯」が 24.2%となっています。全道、市部、石狩管内と比べると夫婦のみ世帯、及び夫婦＋子世帯の割合が最も高く、単独世帯の割合は最も低くなっています。

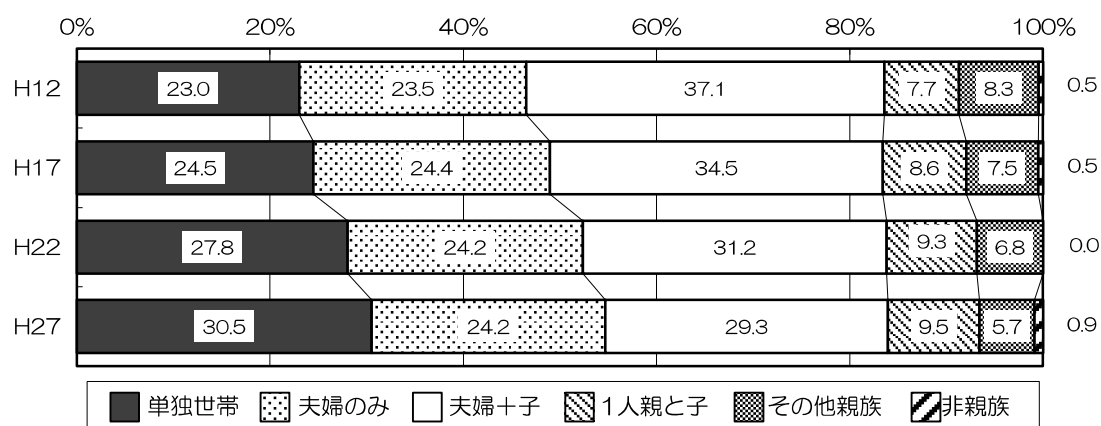
15 年間（平成 12～27 年）の推移をみると、単独世帯の割合が増加し、夫婦＋子世帯は減少となっています。

図 2-6 家族類型別世帯数の比較



資料：平成 27 年国勢調査

図 2-7 家族類型別世帯数の推移



資料：各年国勢調査

## 2 住宅ストックの状況

### (1) 住宅数・空き家数

恵庭市の住宅数は平成 25 年現在で 29,740 戸であり、そのうち空き家は 2,890 戸、空家率は 9.7%となっています。

空家率は、全道と比較して低く、平成 20 年の 12.8%から減少しています。

空き家の内訳をみると、「賃貸用の住宅」が約 7 割を占めている一方で、市場に流通せず、長期にわたって不在であるなどの「その他の住宅」が約 3 割あります。

表 2-1 住宅数、空家率の比較

	a. 普通世帯数 (世帯)	b. 住宅数 (戸)	c. 空家数 (戸)	d=b-a 住宅の 過不足 (戸)	e=b/a 住宅の 過不足率 (%)	f=c/b 空家率 (%)
北海道	2,355,600	2,746,600	388,200	391,000	116.6%	14.1
恵庭市	27,030	29,740	2,890	2,710	110.0%	9.7

資料：平成 25 年住宅・土地統計調査

表 2-2 恵庭市の住宅数、空家率の推移

	a. 普通世帯数 (世帯)	b. 住宅数 (戸)	c. 空家数 (戸)	d=b-a 住宅の 過不足 (戸)	e=b/a 住宅の 過不足率 (%)	f=c/b 空家率 (%)
H15	22,890	26,320	3,380	3,430	115.0%	12.8
H20	26,660	30,610	3,920	3,950	114.8%	12.8
H25	27,030	29,740	2,890	2,710	110.0%	9.7

資料：各年住宅・土地統計調査

表 2-3 空き家の内訳

	空家総数	二次的住宅	賃貸用の住宅	売却用の住宅	その他の住宅
H25	2,890	20 0.7%	2,030 70.2%	50 1.7%	790 27.3%

二次的住宅：別荘、ふだん住んでいる住宅とは別に、たまに寝泊りしている人がいる住宅

賃貸・売却用の住宅：新築・中古を問わず、賃貸・売却のために空き家になっている住宅

その他の住宅：上記以外の住宅で、居住世帯が長期にわたって不在の住宅や、建替えなどのために取り壊すことになっている住宅など

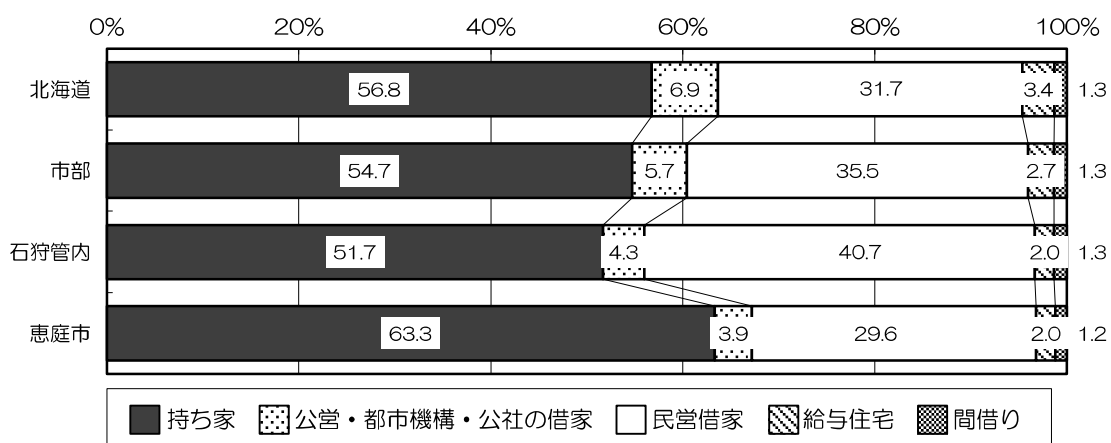
資料：平成 25 年住宅・土地統計調査

## (2) 住宅所有関係別世帯数

住宅所有関係別世帯数をみると、平成 27 年国勢調査では、持ち家が 63.3%、公営借家が 3.9%、民間借家が 29.6%、給与住宅が 2.0%となっています。全道、市部、石狩管内と比較すると、持ち家率が最も高く、公営借家率、民間借家率はともに最も低くなっています。

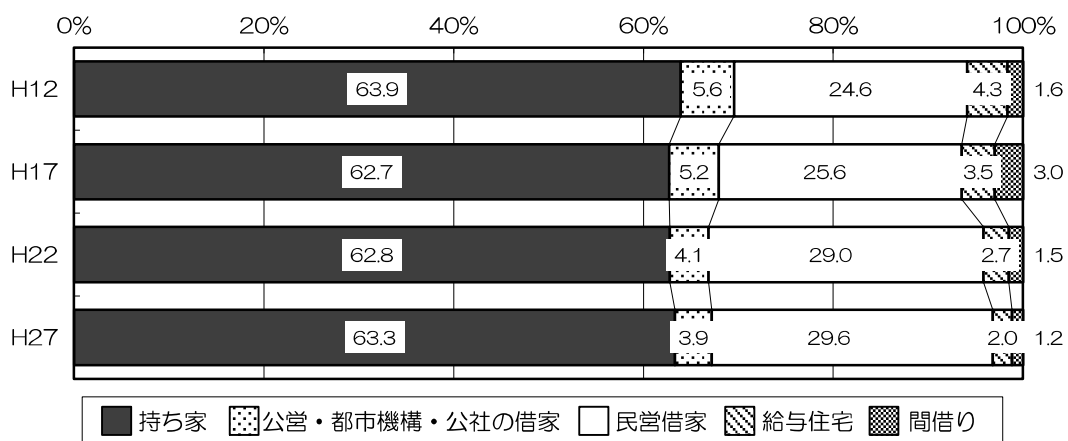
15 年間（平成 12～27 年）の推移をみると、民間借家率が増加傾向であり、公営借家率が減少傾向となっています。

図 2-8 住宅所有関係別世帯構成比の比較



資料：平成 27 年国勢調査

図 2-9 住宅所有関係別世帯構成比の推移



資料：各年国勢調査